

## 64. 野生獣類(ニホンザル)に係る森林被害防除法の開発並びに生息数推移予測モデル確立のための基礎調査

福島県林業試験場緑化保全部・平成8～10福島県林業試験場報告

- 1 部門名 林業－病虫獣害－防除方法 分類コード18-10-29000000
- 2 担当者 大槻晃太・武井利之・橋本正伸
- 3 要旨

福島県におけるニホンザルの農林作物被害は10年来、増加傾向にあり、さらに進行することが予想されるため、被害防除技術、および効果的な防除システムの確立が早急に望まれている。しかし、東北地方のニホンザルは分布が孤立しているため、個体群保護が叫ばれており、被害防除と保護の両面から個体群を管理していく必要がある。したがって、まずニホンザルの生息実態および被害実態を明らかにすること、防除法の検証を行うこと、個体群保護および環境整備に重要な情報源となるサルの土地利用状況や食性などを調査し、地域個体群の管理手法について必要な情報を集積した。

(1)サルの群れは福島市を中心とした県北地区、鹿島町を中心とした相馬地区、裏磐梯を中心とした猪苗代地区、西会津町を中心とした西会津地区、只見町を中心とした只見地区、舘岩村を中心とした南会津地区、檜枝岐村を中心とした檜枝岐地区に生息しており、そのほとんどの生息地で少雪地帯へ拡大傾向がある。また、群れの生息する半数の地域で農林作物被害が発生している。

(2)電気柵や漁網による防除法は効果が認められたが、定期的なメンテナンスが必要となる。なお、閉鎖されていない電気柵内で定期的な追い上げ活動を行ったところ、加害群れの行動が電柵の完成した側から電気柵の完成していない側にシフトした。また、完成した電柵内の農耕地にいる回数も減少した。こうした加害群れの行動を変化させる手法は加害群れのリハビリといわれ、群れの行動が電気柵外に変化すれば長期的な防除効果が期待できると考えられる。

### (3)サルの好む環境

被害を発生させる群れは果樹園や畑地および休耕農園地を含む農耕地とコナラ林を中心とした二次林を通年にわたりよく利用する。農耕地は捨てられた作物や下草を採食するため、収穫期以外でも利用する。このため農耕地内の餌資源除去や一年を通じた防除対策(収穫期と変わらない防除対策)を講じることも必要である。また、被害防除の効果が上がるよう他植生を餌場として整備する必要がある。特に、利用の少ない針葉樹植林地については間伐による林床植生の回復やスポット的な伐採による林縁植生の作出などにより餌資源を増加させる技術の検討も必要である。

### 4 主要な参考文献・資料

平成8～10年度林業試験場報告